２０．２０１７“島人ぬ宝　『サンゴと共に』

実施主体名	ちゅら海を守り、活かす海人の会
イベント名	２０１７“島人ぬ宝　『サンゴと共に』
開催日時	２　月　２６　日１５時　　～　２月　２６　日１８時
開催場所	沖縄県水産会館（沖縄県漁業協同組合連合会）
実施内容	※実際に実施した内容を簡単にご記入ください。 ２０１６年９月～２０１７年１月迄調査した沖縄本島１７か所のリーフチェックの報告とサンゴについての有識者による講演会
実施状況	参加者総数　　５８名 参加者層　親子２名　ダイビング、マリン関係者　１８名 一般　約２３人　スタッフ　１０人　他 反応　音響装置が悪く聞こえにくかった。 サンゴの白化現象の現状が良く理解できた
実施しての所感	２月１５日から３月１５日迄、確定申告の関係で各地区ごとに申告会場で会場が確保できづ今年は、場所の選定で苦労したし集客にも大変苦労した。
メディアへの掲載	琉球新報　２月２８日　４月１０日発売の月刊マリンダイビング誌

【当日の様子】

２１．美ら島自然学校 学習会「ウミガメのなぞ」

実施主体名	（一財）沖縄美ら島財団 総合研究センター
開催日時	3 月 4 日　14 時 00 分　　～　3 月 4 日　16 時 00 分
開催場所	美ら島自然学校 教室 A
実施内容	・ ウミガメの種類、生態についての講話 ・ ウミガメとリクガメの形態の違いについて解説 ・ ウミガメの生体や骨格標本を用いて、形態の観察と解説
実施状況	・ 開催場所：美ら島自然学校（所在地：名護市嘉陽 41 番地） ・ 屋内にて実施 ・ 参加者数：9 名（子ども：2 名、大人：7 名）※すべて県内在住者 ・ クイズ形式で解説を行う等、参加者が理解しやすいように工夫した。
実施しての所感	アンケートより「標本や子ガメの生体を使用して説明されており良かった。」「（実際に触って、観察できて）インターネットや本での調べ学習では得られない内容でよかったです。」等の意見をいただいたことから、本学習会を通して、自然および生き物への理解や関心の向上に繋がったと考えられる。
メディアへの掲載	なし

【当日の様子】

２２．美ら島・美ら海こども工作室「サンゴの型取り染めでオリジナルＴシャツなどを作ろう」

実施主体名	（一財）沖縄美ら島財団 総合研究センター
イベント名	美ら島・美ら海こども工作室「サンゴの型取り染めでオリジナルＴシャツなどを作ろう」
開催日時	3 月 5 日　13 時 00 分　　～　3 月 5 日　15 時 00 分
開催場所	美ら島自然学校 教室 A
実施内容	・ サンゴの種類や形態についての講話 ・ サンゴ骨格を利用した型取り染めで作製できる作品の紹介 ・ 参加者自身が持参したＴシャツなどを利用して染め物の作製
実施状況	・ 開催場所：美ら島自然学校（所在地：名護市嘉陽 41 番地） ・ 屋内にて実施 ・ 参加者数：11 名（子ども：4 名、大人：7 名）※すべて県内在住者
実施しての所感	アンケートより、「サンゴの骨には色々な形や模様があることを知った。」「自然素材を利用した工作がよかった。」等の意見をいただいたことから、本工作を通して、自然および生き物への理解や関心の向上に繋がったと考えられる。

【当日の様子】

２４．サンゴ礁自然誌講座「サンゴ礁の磯観察」

実施主体名	（一財）沖縄美ら島財団 総合研究センター
開催日時	3 月 12 日 12 時 00 分　～　3 月　12 日　15 時 00 分
開催場所	（一財）沖縄美ら島財団総合研究センター（集合場所）
実施内容	・ 屋内にて、サンゴ礁の多種共存を支えている「棲み込み連鎖」を解説し、磯観察を行う際の注意点やポイントについても紹介した。 ・ 野外にて、サンゴ礁イノーで見られる様々な環境や地形、生物（サンゴやウニ、貝類等）を観察した。 ・ ハマサンゴのマイクロアトールに着目し、「棲み込み連鎖」の様子を観察した。 ・ 室内に戻り、観察のふりかえりを行なった、
実施状況	・ 開催場所：（一財）沖縄美ら島財団総合研究センター視聴覚室（所在地：国頭郡本部町石川 888 番地）および本部町備瀬の海岸 ・ 天候：晴れ ・ 参加者数：7 名（子ども：0 名、大人：7 名）※すべて県内在住者
実施しての所感	アンケートより、「『棲み込み連鎖』の概念について知ることができてよかった。」「参加対象が大人だけであり、『棲み込み連鎖』の概念を聞きながら観察ができてよかった。」という意見をいただいたことから、今後の野外観察会の実施の参考にしたい。
メディアへの掲載	RBC 琉球放送「南の島のミスワリン」3 月 26 日放送

【当日の様子】

２５．合言葉は『サンゴ可愛い！』

実施主体名	さんご畑
イベント名	合言葉は『サンゴ可愛い！』
開催日時	2月　25日　9時　　～　3月　12　日　18時
開催場所	海の種施設「サンゴ畑」
実施内容	受付で合言葉『サンゴかわいい』と言っていただいたお客様入場無料
実施状況	参加者数：大人 100名・学生(高校生以上)9名・子供 68名合計 177名 参加者層：(親子・シニア・若者・観光客・地元の方) 参加者の様子：親子で生き物に触れたり、サンゴについて興味を持ち質問をしてくるお子さんがいらして来年もまた来ますと仰ってくださる方もいました。
実施しての所感	前年度に引き続きサンゴ礁ウィークを活用して 県外企業さまと共に親子で参加できるイベントを実施する事ができたこと、毎年サンゴ礁ウィーク期間中にご来園くださるリピーターのお客様が多く見られました。

２６.プレサンゴ礁ウィーク　喜界島サンゴ礁フェス

<table>
<tr><td>実施主体名</td><td>主催：環境省、鹿児島県、喜界町、喜界島サンゴ礁科学研究所、
奄美群島サンゴ礁保全協議会
協力：WWF ジャパン</td></tr>
<tr><td>開催日時</td><td>2 月　11 日　15 時　～　2 月　11 日　18 時</td></tr>
<tr><td>開催場所</td><td>喜界島役場コミュニティホール</td></tr>
<tr><td>実施内容</td><td>
<table>
<tr><th colspan="3">ステージ進行</th></tr>
<tr><td>15:00-15:05</td><td>ステージ開会　開会の挨拶
(着ぐるみ 15:10-15:40)</td><td>喜界町　副町長</td></tr>
<tr><td>15:05-15:10</td><td>サンゴ礁保全行動計画について</td><td>環境省</td></tr>
<tr><td>15:10-15:45</td><td>サンゴ礁文化を継承する里海づくり～石垣島白保集落と取り組んだサンゴ礁保全～</td><td>筑紫女学園大学准教授
上村真仁氏</td></tr>
<tr><td>15:45-16:20</td><td>地域と歩むサンゴ研究者として～四国の事例～</td><td>四国海と生きもの研究室
代表　岩瀬文人氏</td></tr>
<tr><td>16:20-17:00</td><td>なぜサンゴ礁を守るのか
（聞き手：喜界島サンゴ礁科学研究所長山崎敦子氏）</td><td>琉球大学名誉教授
土屋誠氏</td></tr>
<tr><td>16:50-17:05</td><td>研究所看板除幕式</td><td>渡邊氏・山崎氏</td></tr>
<tr><td>17:05－17:10</td><td>フラダンス用会場設定</td><td></td></tr>
<tr><td>17:10-17:40</td><td>芸能ステージ　アヌエヌエフラ教室</td><td></td></tr>
<tr><td>17:30</td><td>着ぐるみ再登場(17:50 まで)</td><td></td></tr>
<tr><td>17:40-17:45</td><td>閉会の挨拶</td><td>喜界島サンゴ礁科学研究所代表　渡邊剛氏</td></tr>
</table>
会場内
【販売ブース】
・喜界島サンゴ礁科学研究所　・オーガニックアイランド喜界　・ＮＰＯ法人夏花
【工作・体験ブース】
・研究所看板作り　・サンゴ染め　・星砂さがし
【来場者プレゼント　先着 100 名】
・環境省：アヒル隊長シールと缶バッジ
・ＷＷＦ：4 枚組ハンドタオルセット
・ＮＰＯ法人夏花：月桃パウダー入りサーターアンダギー3 個入り
【ポスター・パネル展示】
・環境省：森里川海パネル 6 枚　・ＷＷＦ：ポスター4 枚　・ＮＰＯ夏花：ポスター 4 枚
</td></tr>
</table>

実施状況	参加者数：200 参加者層：親子、シニア、若者、観光客、行政関係者 参加者の様子：予想以上の来場者があり、サンゴ礁保全に関心を持つ方はステージでの講演、子供連れは会場内の工作に参加する等、全世代が楽しめるイベントとなった
実施しての所感	来場者プレゼントや、着ぐるみの出動など、来場者増の仕掛けをしたことにより、予想を上回る来場者を記録した。
メディアへの掲載	南海日日新聞、2 月 12 日 奄美新聞　2 月 12 日

【当日の様子】